教育総合センター
だより

ＮＯ．１６６
令和　４．１２．１

「お互いに支え、学び合う」

尼崎市立大庄中学校
校長　　佐々野　俊弥

１，子どもから学んだ担任時代

♫また会おう、群青の街で・・アルカイックホールで本校代表クラスが歌う。中１の入学式が６月の学年。ここまできたことにジーンとする。今年、コロナ以来、初めて全17校の中学校が揃い、中高合同音楽会(通称アルカイック)が行われた。

担任時代、ありがたいことに子どもたちに複数回アルカイックへ連れていってもらった。各校合唱コンクールに向けてのクラス練習、ソプラノ、アルト、テノール、バス、各パート男女の声が重なり合い、自分のクラスだけの音が生まれる。

ただ、まじめに取り組む女子と、いい加減な男子との間でよくトラブルが。担任の私は、ろくに音符も読めず、あたふた。伴奏者、指揮者に聞きまくり、練習の指導等、様々な指示はパートリーダーを含む子どもたちに任せてやってもらう。私は、騒ぐ男子の隣へ。リハーサルで他クラスの合唱を聴くと、男子もやる気を見せ、クラス全員が協力し合う素晴らしいハーモニーが。音楽の授業はあるが、毎日の練習は子ども同士の教え合いでつくり仕上げる。曲が仕上がった時はぞくっとくる。子どもたちの目はイキイキ。まさしく「協働学習」、担任はファシリテーター。子どもが子どもたちに話す言葉、大きいものがある。そして、子ども同士協力するのと同じく、様々な問題の対応、先生同士の連携が何より大切と気づかされる。

２，先生方に支えられた教頭時代

教頭になった初年度、前任の教頭先生が「わからないことは、いつでも携帯に電話していいよ。一年間の保証付き」と。

新任校長としてお忙しいにもかかわらず、数か月、毎日電話で助けていただく。また、近隣校教頭先生にも支えてもらう。教頭４年間にお仕えした３人の校長先生方からは、現場で校長としての覚悟をみせていただき、今の自分につながる。感謝しかありません。

３，38年間をふりかえり

初任校は校内暴力真っ只中。学年の正副委員長で、「いじめ対策委員会」を設置。中心の先生もすごいが、対策委員の子どもたちが必死で呼びかけ、いじめ事案がみるみる減る。

また、担任最後の学校で、生徒会掲示物が壊される。朝礼時女子の生徒会長が、涙ながらに全校生に訴える。ピタッと破損が止まる。

小学校の校長時、6 年生がお互いに教えあい、素晴らしい協働学習の授業を展開。ともすれば、私たちは、すべて教師が指導をすると考えがち。しかし、子どもの力も信じてファシリテーターとして、子どもが意見を言える環境を創る、指導ではなく支援が大切と気づかされる。力のない私が38年間勤められたのは、素晴らしい子どもたち、先生方から支え学ばせていただいたから。

多くを教えてくれたこの尼崎市に、今までとは違った形で、これからも少しずつ恩返しをしたいと考える。

☆☆～ICT活用推進部会より～☆☆

GIGAスクール構想で、児童生徒に１人１台端末が配備され、２年が過ぎました。尼崎市の端末利活用状況は、教職員の協力もあり、順調に進んでいます。ICT活用推進部会では、年６回の計画で、児童生徒１人１台の端末を活用した先進的な事例を学んだり市内の学校間で取組を共有したりすることで、多くの教員が効果的にICTを活用し、「指導の個別化」や「学習の個性化」の授業スキルを身につけられるように推進することを目的とし開催しています。

【6/9、6/30実施　第1、2回ICT活用推進部会】

本市のメインアプリケーションである「Google Workspace for Education」と「ロイロノート」の研修をそれぞれの会社の方を講師に迎えオンラインにて行いました。先進的に取り組んできた自治体・学校ではどのように 活用した授業が行われているのか具体的な実践例をもとに使用方法などを学びました。

～出席者アンケートより～

〇使用するのは便利な反面、ICTを根付かせるのには労力がいるなと感じました。

〇実際に使えそうな機能を紹介していただいたので、自校の教員に広めてさっそく活用していきたいと思います。シンキングツールの切り替えは、実際にやってみることで、ツールの形によって得意不得意があることがよくわかりました。共有ノートは知らない教員が多いと思うので、情報を伝えたら喜ぶと思います。

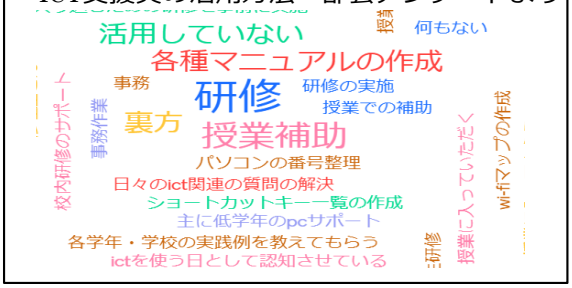
〇これから、国語の時間の新聞づくりなど、アンケートをロイロノートで子どもたちが作るなど、ロイロノートの使用が増えていくので、とても勉強になりました。

また、校内でも研修等、行っていきたいと思います。

【7/28実施　第3回ICT活用推進部会】

第３回では、昨年度のベストプラクティス校の２校に学校での先進的なICT活用を発表してもらいました。その後、各校での活用状況の情報交換を行いました。新たな気づきなど実りの多い部会となりました。

～ICT支援員の活用方法～部会アンケートより



【10/21実施　第4回ICT活用推進部会】

昭和女子大学准教授　緩利　誠氏を講師に迎え、「ICTを効果的に活用した学習」をテーマに部会を行いました。部会では、ICTをただ使わせているだけでは意味がなく、困っていることを解決するために使用することや、自分の頭で考えるためには、「この情報はだれが発信したか？」や「事実の根拠や参照はあるか？」など批判的思考を持つことの大切さといったことを、最新のデータを交えながら学びました。

～出席者アンケートより～

〇気づきが多くあった研修でした。魅力的な問いをつくるヒントをいただきました。学校で推進していく立場の者に対してのお話しもあり助かりました。

〇必要な気づきを与えてもらえる研修でした。方向性の示唆で終わってしまったのが残念でした。続きとして、実践を練り上げるような具体的な研修をしていただきたいです。

〇目的・つけたい力に応じてICTを使う場面とアナログで学習する場面を使い分ける必要性を感じました。目的・ねらいがあってのICTなので活用しながら有効な場面・方法を考えていきたいです。

【おわりに】

ICTは非常に便利なものです。児童生徒の主体的、対話的で深い学びに繋がる学習ツールとして大きく貢献します。また、昨今の社会的な問題となっている多忙な教職員の校務改善にも非常に役立ちます。教 職 員 の皆様が、ICTを効果的に活用して頂けるように、各校の好事例などを、本年度、あと２ 回 実施予定の研修やICT活用推進部会の掲示板、学校訪問など、様々な機会を設けて情報提供を行っていきたいと思います。

（学校ICT推進課　係長　山下　崇）

☆☆☆日々の生活の中に人権教育を☆☆☆

１２月１０日は「人権デー」です。

日本では、その前の一週間を「人権週間」と定めており、学校園や地域等でも、この人権週間に合わせて、様々な取組やイベントが行われています。

法務省では、人権啓発活動強調事項として１７項目が設定されていますが、みなさんはご存知でしょうか。

「①女性」「②子ども」「③高齢者」「④障害者」「⑤同和問題」「⑥アイヌの人々」「⑦外国人」「⑧感染症」「⑨ハンセン病」「⑩刑を終えて出所した人」「⑪犯罪被害者」「⑫インターネット」「⑬北朝鮮当局による人権侵害問題」「⑭ホームレス」「⑮性的指向及び性自認」「⑯人身取引」「⑰震災等の災害」

これら１７項目が啓発活動強調事項として挙げられています。

小・中学校においては、多くの学校が「こころの教育推進事業」を活用して、様々な人権課題について講師を招聘し、学習しています。

・視覚障がい者や聴覚障がい者の方を招き、講演会やアイマスク体験、手話体験等を実施する。
・SNS 上でのトラブルが実際の生活に及ぼす影響について、実例をもとにして、被害・加害両方の側面から、適切な利用方法について考える。
・「多様な性」をテーマに、その当事者の方を招き、ご自身の経験等についての話を聞き、自己の生き方について見つめなおす。

このように、様々な人権課題について学習しています。

また、中学校では今年度より、「予期せぬ妊娠」、「デート DV」、「多様な性」の３つのテーマについて、在籍３年間で全て学べるよう、計画的に性教育の充実を図っています。

一方、児童生徒だけではなく、教職員においても、「同和問題」や「多様な性」等のテーマについて、各校で校内研修を実施しています。

また、教育総合センターにおいても「多文化共生」や「子ども（ヤングケアラー）」等のテーマでの研修講座を実施し、初任者研修で、「北朝鮮当局による人権侵害問題」に関するアニメ「めぐみ」の視聴、「子どもの権利条約」の内容についても研修しています。

このように、あらゆる機会を通じて、人権教育及び人権啓発の推進に向けた取組がなされています。

さて、毎年、「全国中学生人権作文コンテスト」が開催されています。私も、審査員の一人として市内の中学生の作品を読む機会がありましたが、どの作品も、友人や家族等、身近にある事柄を題材にし、人権課題を自分事として捉え、自分の考えをはっきりと述べており、中学生の人権課題に向かうその真摯な姿に、胸が熱くなりました。

これは、きっと、日々の学校・家庭・地域等での地道な、そして継続した取組がつながっているのだと感じています。今年も、11 月 26 日に「人権週間のつどい」が行われ、会場は素晴らしい作品に感動の拍手が送られました。

「人権」という教科はありませんが、これからも、私たちの日々の生活の中に、人権について考える機会を設け、誰もが過ごしやすい社会を形成する一人として、尼崎市全体が「人権文化がいきづくまち」になっていくことを願っています。

（学校教育課　指導主事　堀　祐輔）

教育情報コーナーのお知らせ

☆教育情報コーナーのご案内

教育情報コーナーでは、先生方に利用していただきたい本や資料、雑誌等を整備しています。また、必要な図書、資料等のご相談にも応じております。お気軽にお尋ね下さい。

（３Ｆ　教育情報コーナー）

【新着図書】

・『学校に行けない「からだ」～不登校体験の本質と予防・対応』
諸富　祥彦　著／図書文化社

・『明日の授業が変わる「発問」の技術』　『授業力＆学級経営力』編集部　編／明治図書

・『教育論の新常識　～格差・学力・政策・未来』　松岡　亮二　編著／中央公論新社

・『２０３０年の学校をつくるスクールリーダーへ』　『教職研修』編集部　編／教育開発研究所

・『発達障害「グレーゾーン」　～その正しい理解と克服法』
岡田　尊司　著／ＳＢクリエイティブ

・『先生に知ってほしい家庭のサイン』　五十嵐　哲也　他編著／少年写真新聞社

・『入門生徒指導　持続可能な生徒指導への転換』　片山　紀子　著／学事出版

・『探究モードへの挑戦　～高度化・自律化をめざすＳＤＧｓ時代の人づくり』
田村　学　他編著／人言洞

（担当　松浦）

☆「ひと咲きタワー」は、学びのタワー！

【本の紹介】

■『Ｑ＆Ａスクール・コンプライアンス１２０選』（ぎょうせい　2020年10月初版発行）

著者　菱村　幸彦：京都大学法学部卒業、昭和34年文部省入省。教科書検定課長、高等学校教育課長、総務審議官、初等中等教育局長、国立教育研究所長、駒場東邦中学校・高等学校長等を歴任。著書に『戦後教育はなぜ紛糾したのか』（教育開発研究所）『はじめて学ぶ教育法規』（教育開発研究所）等

最近よく耳にする「コンプライアンス」という言葉。一言でいえば「法令順守」を意味するものですが、教職員には一般の公務員に比べても、より高いレベルでコンプライアンスが求められるといえるでしょう。

近年、教職員の教職生活、教育指導、生徒指導等をめぐって、法的トラブルが増加し、法的責任を問われるケースが広がっています。

本書は、学校管理職のみならず、一般の教職員にも役立つようにＱ＆Ａの形式で、コンプライアンスの観点から、学校に係る様々なケースを解説しています。

■『スマホ脳』（新潮新書　2020年11月初版発行）アンデシュ・ハンセン著　久山　葉子訳

著者　アンデシュ・ハンセン：1974年スウェーデン生まれ、精神科医。経営学修士。現在は病院勤務の傍らメディア活動を続け、前作『一流の頭脳』は世界的ベストセラーに

訳者　久山　葉子：1975年兵庫県生まれ。翻訳家。エッセイスト。神戸女学院大学文学部英文学科卒。スウェーデン大使館商務部勤務を経て、現在はスウェーデン在住。

教育大国スウェーデンを震撼させ、社会現象となった世界的ベストセラー。精神科医である著者が、スマホによる、睡眠障害、うつ、記憶力や集中力等の低下といった現実を、人間の進化の観点から、脳の働きを詳しくみることで明らかするとともに、デジタル時代のアドバイスも提言しています。

（担当　西川）

※教育総合センターには、すてきな本がたくさんあります。